

## Catch the eye 2014年7月

2014/7/1  
(火)

佐藤初女さん

まるで梅雨明けしたような晴れの日、紫陽花の写真も季節外れな感じのする7月1日。京都では祇園祭りの始まり。とんとんと時間が流れていく。時間の流れは容赦ない。いつにもましてそう感じたのは先週土曜。堺東であった佐藤初女さんの講演会。人に教えられ、行った。

講演会の前にドキュメンタリーの上映があった。その中で佐藤さんはふくよかで背筋がのびて、休む間もなく働いていた。作業する手元が時々映った。その手が何ともいえず豊かだった。何もかも包み込む温かみのある手。

撮影から23年、今年秋で93歳と聞く。壇上に姿を見せた佐藤さんは小さくなってしまっていて、足元が不安定だった。ちょっと驚いた。こんなに変わってしまうのかと。でも、思考は健在。長時間、質問にも簡潔に答えていた。質問が多すぎて、わたしまで回らなかったのはちょっと残念。

2014/7/3  
(木)

倫理



今日は梅雨に戻った。朝から雨。午後からは強く降るらしい。傘を持つことになるからバッグは一つにした。地下鉄内で昨日の夕刊を読む。まず目をひいたのは『フェイスブック 謝罪』。心理学の実験に投稿を操作し、「倫理的に問題」と批判殺到。謝罪はするも、倫理的に問題というのは、「データ利用に関するポリシー」の範囲内と主張。この記事を読んで、集团的自衛権のことにつなげて考えた人の少なくない気がする。

同じ夕刊トップの左にはiPS細胞の臨床研究が中止されるかもしれないという記事。この中でも、「倫理」という言葉あり。自ら所属する組織の倫理観に耐えられないと研究者が語っている。人の道、社会に共存するものとしての規範、そのとらえ方がズレているとうたっている。倫理という言葉は同じでも、その意味の認識と解釈は別。権力もつ者に引きつられるのが常、ゆえにそれを制する存在もまた不可欠。

2014/7/5  
(土)

トレードオフ

昨年昨日はおそろしく蒸し暑かった。大きなイベントがあったからよく憶えている。それにくらべて今年はしのぎやすい。朝晩はひんやりしている。来週には七夕なのに、7月の季節感がない。さて、今年の夏はどう経過するやら、異常気象が普通になっている昨今。

結局その引き金を引いているのも人間？昨日の新聞記事『シェール採掘、地震を誘発？』を読んで、そうとも感じた。地中に捨てられた廃水が地震を誘発しているとは。大量の廃水が岩盤の間に広がり断層を動かす主因になっているという分析結果。

## Catch the eye 2014年7月

生き続けるために、環境を揺るがし続ける人間。いずれは限界点に達する時が来るだろうと思うけど、それこそ天文学的数字の先の話。それ以前に資源をめぐる争いや攻防が庶民の生活を揺るがす。今年生まれた子たちが還暦になる頃には、さて、どんな世界になっているのか。

2014/7/8  
(火)

短い夏

おおー、初蟬だと思わず声をあげた。今朝、この夏初めての蟬の声。朝から蒸し暑く、本格的な夏到来の感。地下鉄の広報板には市内各神社の夏祭りの案内。夏らしい夏はやはり立秋前まで。夏は野性とりもどす季節、できれば夏の休暇はこの間に組み入れるのが良し。

たまたまそうできたのは、2002年の夏。もう12年も前になるなんて、信じられない。初めて青春18きっぷを使い信濃木崎湖へ行った。大阪ではけっして見ることのできない風景。北アルプスが眼前に迫る日常空間。夕暮れに一人、あぜ道を歩けば澄んでくる感性。

2014/7/12  
(土)

堂



まるで梅雨明けしたような空。よく晴れて暑い。蟬の声も、まだ本鳴きではないければ、時々聞こえる。夜明け前、西の空に橙の丸い月。色が異様に濃かった。生きて熱を発しているようだった。今夜、満月。

ひょっとしてこの人の本かしらと日経夕刊のインタビュ連載「南へあこがれ聖地探究」を読んでいて、数年前に買った本を思い出す。岡谷公二さん、ずいぶん愛嬌のある顔をされている。もうずいぶん前にチェジュで一度連れられた行ったところが、堂（タン）というのだと岡谷さんの本で知った。母たちが祈っているのを側で見ただけだった。何もないところで、何をしているのかと思ったものだった。ある種、礼を欠く態度。そこから考えると、傲慢は無知の表れと言えるか。

2014/7/15  
(火)

雨上がり



朝の6時半ごろ、真夏ように蟬が鳴きはじめた。ただし後は続かなかった。やはり梅雨明けはもう少し先。昨夕、仕事帰りに、雨上がりのうつぼ公園を歩いた。熱帯雨林に迷い込んだ感じがした。高い木々を見上げ、水も滴る緑の枝葉を目にしみ込ませた。自然の緑は本当に目が休まる。森林浴効果もいつもより高い。これも雨の恵み。

ムクドリが行く手の前に現われる、木々の間を飛び回る。気持ちが自然にかえっているから、鳥と遊べる気になり、自分から近づいていく。相手は逃げるけど、遠くへはいかず、頭上の木々の中で鳴いている。行く先に、同じように木々を見上げる女性一人。雨上がりの樹気ただようこの期を愉しむ姿。おそらく先方も見てとった、ご同輩。

## Catch the eye 2014年7月

2014/7/18  
(金)

夏

梅雨明け目前、暑さが変わってきた。外を歩くと、自然に暑い暑いとつぶやいている。百日紅の花もみかけた。来週早々に梅雨明けの予報。これから来月初めにかけて、夏の真っ盛り。暑いけど、夏ならではの空気、夏に漂う郷愁に、どこかのタイミングで身を寄せたい。夏は長いようで短い。

2014/7/23  
(水)

感心



今日は大暑、電車に乗ってくる人の顔が疲れて見える。梅雨が明け、厳しい暑さに、みな少々まいり気味。結局、大阪は雨の少ない梅雨だった。今年は梅雨明け前から、まるで秋の空のような日何日かあった。18日の夕空もそうだった。今年の夏ははやく進みそうか。

今日さっそく暑中見舞いの葉書が届いた。段取りの良さに関心。昨日は若い人から届いたお礼メールに関心。読み進むにつれ、熟年の聡明な女性のような印象。ほどよい丁寧さと、胸のうちを品よく明かしつつ、さわやかに結びの言葉へのつなげる。こんな風に表せる人はそうそういないと感じた。これこそ、育ちか。

2014/7/25  
(金)

旅

異様な暑さ。朝一番から気温は27度、蝉の賑やかな合唱、夏の極みという感じ。昼下がり、ちょっと外へ出たら、眩暈しそうな陽射しと熱風。今日は天神祭の本宮、関係者として参加している知人のことを思い、大丈夫かしらと案じる。

あまりの暑さに、涼しい記憶がよみがえったのか、12年前の夏休みを思い出した。仕事の合間に二泊三日で出かけた信濃の木崎湖。7月末から8月にかけてだった。今日の文化往来は伊丹十三の「旅の時代」展の話題。『旅に出て、日常の雑事から解き放たれると「感じる力」が回復する』と語ったという。同感。

2014/7/31  
(木)

環境

もう最後の日になってしまった、7月も。お昼時に外へ出てみると、空は夏の青空。旅心がわいてくる。今年の夏は大阪へ遊びにくる人が多いとか。その大阪を犯罪の街と紹介した海外プレスがあった。データでも証明されていたわけだけど、その後ワースト1を脱したと喜んでいたのはまぼろし。汚名返上どころか、倍増してしまっ、何とも情けない。

目的を見誤ると、組織集団はあっけなく善悪の判断を狂わせる。心理学の実験で囚人と看守に分かれて学生たちに演じさせたところ、人格への影響が懸念され、途中で実験は中止されたという話をラジオで聴いたことがある。今回長崎で起きた猟奇的な事件、家庭が一番身近な組織。16年の間に善悪のモノサシは心にどう刻まれていったのだろう。